

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	卒業研究(Graduation Thesis)		授業コード	C109931
担当教員名	赤星 哲也		科目ナンバリングコード	
配当学年	4	開講期	通年	
必修・選択区分	必修	単位数	6	
履修上の注意または履修条件	卒業研究着手条件を満たしていること。			
受講心得				
教科書				
参考文献及び指定図書	<p>(Web)</p> <p>「CiNii」 http://ci.nii.ac.jp/ 「言語情報処理ポータル」 http://nlp.kuee.kyoto-u.ac.jp/NLP_Portal/ 「NLTK -- Natural Language Toolkit」 http://www.nltk.org/</p> <p>(書籍)</p> <p>「自然言語処理の基礎」 コロナ社 「自然言語処理(岩波講座ソフトウェア科学15)」 岩波書店 「言語研究のためのプログラミング入門: Pythonを活用したテキスト処理」 開拓社 「入門 自然言語処理」 オライリージャパン 「IT Text 自然言語処理」 オーム社 「言語処理学事典」 共立出版 「言語処理のための機械学習入門」 コロナ社 「実践 機械学習」 オライリージャパン 「集合知プログラミング」 オライリージャパン 「セマンティックWeb プログラミング」 オライリージャパン 「Googleを支える技術 巨大システムの内側の世界」 技術評論社 「エージェントアプローチ人工知能 第2版」 共立出版</p> <p>(月刊誌)</p> <p>「日経ソフトウェア」 ※NBU大学図書館・情報検索サービス「日経BP社記事検索サービス」を用いて閲覧可 http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/</p>			
関連科目	これまでに履修した専門教育科目、教養基礎科目の全て			

授業の目的	卒業研究は、これまで学んできた専門教育、教養基礎教育の集大成として、知識修得型の授業形式ではなく、学生が自ら問題を発見し、その解決方法を考え、実際にその効果を確認してみる主体的実践的な学習活動を通して、実社会で要求される問題発見、問題解決、文献調査・情報収集、計画立案、論理的思考、文章化、プレゼンテーション、プログラミング、システム設計等の基礎的能力の確立を目標としています。
授業の概要	赤星研究室では、「自然言語処理」を中心に、関連した分野も含めた研究テーマについて取り組んでいきます。週に1回以上、研究室の全員が集合して報告会を開き、各研究テーマについて討論を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: 卒業研究テーマの決定 卒業研究テーマを決定する。	文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第2週: 先行文献の調査	

研究計画書を作成するために、先行文献を調査する。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第3週：先行文献の調査 研究計画書を作成するために、先行文献を調査する。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第4週：研究計画書の作成 先行文献の調査をもとに、研究計画書を作成する。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第5週：中間発表の準備 研究計画書にもとづき、中間発表に向けて卒業研究に取り組む。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第6週：中間発表の準備 研究計画書にもとづき、中間発表に向けて卒業研究に取り組む。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第7週：中間発表 これまでの研究成果をまとめ、中間発表を行う。		発表資料
第8週：卒業研究論文の作成 研究計画書にもとづき、卒業研究に取り組む。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第9週：卒業研究論文の作成 研究計画書にもとづき、卒業研究に取り組む。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第10週：卒業研究論文の作成 研究計画書にもとづき、卒業研究に取り組む。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第11週：卒業研究論文の提出 卒業研究の内容を論文にまとめ、提出する。		卒業研究論文、制作物(プログラムソースコード等)
第12週：卒業研究発表会(口頭試問)		発表資料
第13週：卒業研究論文の修正 口頭試問で指摘された問題点について検討を行い、論文の修正を行う。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第14週：卒業研究論文の修正 口頭試問で指摘された問題点について検討を行い、論文の修正を行う。		文献検索サイト(CiNii等) 専門書・先行文献
第15週：卒業研究最終発表会		
第16週：		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	研究テーマについて追求し、先行文献の収集を行う。
【知識・理解】	①先行研究を把握している。 ②研究を行うために必要な知識を理解し、研究テーマに応用できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	①研究成果を論文の形でまとめる。 ②研究成果を第三者に対し分かりやすく発表する。
【思考・判断・創造】	①研究計画を立てる。 ②研究計画に基づき研究を進め、各期限内に成果をまとめる。(中間発表、口頭試問)

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	15点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		25点		
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	[Sレベル]到達目標を満たしている。 [Aレベル]到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]到達目標を一部満たしている。
発表・その他(無形成果)	意欲的に卒業研究に取り組んでいるかを評価します。